

G COAT DIV.

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	G Coat ウィンドウガラスコート
製造者名	株式会社e-Link
所在地	〒243-0417
担当部門	神奈川県海老名市本郷4567-1
電話番号	046-244-3102
推奨用途及び使用上の制限	ウィンドウガラスのコーティング

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分2(イソプロピルアルコール)
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過氧化物	分類対象外

健康に対する有害性

金属腐食性物質	区分外
急性毒性(経口)	区分5
急性毒性(経皮)	区分5
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類対象外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	分類対象外
皮膚感作性	分類対象外
生殖細胞変異原性	分類対象外
発がん性	分類対象外
生殖毒性	分類対象外
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、腎臓、全身麻痺) 区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性

特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分2(血管、肝臓、脾臓)
吸引性呼吸器有害性	区分2
水生環境急性有害性	分類対象外
水性環境慢性有害性	分類対象外

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
 飲み込むと有害。
 皮膚に接触すると有害のおそれ
 吸入すると有害
 重篤な眼の損傷。
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 呼吸器・中枢神経系への障害のおそれ
 長期又は反復暴露による肺の障害、長期又は反復暴露による血液障害のおそれ

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 スプレー施工を行わないこと。
 この製品を使用する際に、飲食又は喫煙をしないこと。
 熱から遠ざけること。
 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
 保護手袋、保護眼鏡及び保護面を着用すること。
 屋外又は換気のいい区域でのみ使用すること。
 粉じん、ミストの吸入を避けること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 環境への放出を避けること。

応急措置

吸入した場合: 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断手当を求めること。
 眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して
 いて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼に入った場合: 目の刺激が持続する場合は医師の診断、手当を受けること。
 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合: 無理に吐かせずに水や牛乳、卵を飲ませて毒性を希釈する。
 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で保管すること。
 内容物や容器を、国又は都道府県の規制に従って廃棄すること。

保管
廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分	含有量(%)	CAS番号	化審法	安衛法
2-プロパノール	90以上	67-63-0	(2)-207	該当
無機酸	1未満	社外秘	社外秘	社外秘
フロオロアルキルシラン	0.5未満	社外秘	社外秘	社外秘

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合や気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。
目に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。直ちに医師の手当てを受けること。 無理に吐かせずに水や牛乳、卵を飲ませて毒性を希釈する。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入した場合: 咽頭痛、咳、めまい、頭痛、吐き気、息切れ。 皮膚に付着した場合: 腐食性。白斑、発赤、皮膚熱傷、痛み。 目に入った場合: 腐食性。発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷。 飲み込んだ場合: 咽頭痛、腹痛、腹部膨満、吐き気、嘔吐。
最も重要な兆候及び症状	特になし
応急措置をする者の保護	特になし
医師に対する特別な注意事項	特になし

5. 火災時の措置

消火剤	水
使ってはならない消火剤	周辺火災に応じた消火剤を使用。
火災時の特有の危険有害性	火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生するおそれがある。 火災又は爆発のおそれ
特有の消化方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 大火災の場合、火災区域に適度の距離から大量の水を散水する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やミストの吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法・機材	安全を確認してから、流出防止の措置をとる。環境への放出を避けること。 蒸発を抑え、蒸気の拡散を防ぐため散水を行う。

7. 取扱及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	作業場の換気を十分に行い、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。
局所排気・全体換気	蒸気、粉塵またはヒューム、ミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
注意事項	眼、皮膚に接触しないようにする。
安全取扱い注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物の使用を禁止する。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼に入れないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	

技術的対策

適切な保管条件

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。容器を密閉しておくこと。子供の手の届かないように保管すること。直射日光が入らない場所に貯蔵すること。

**混触禁止物質
 安全な容器包装材料**

「10. 安定性及び反応性」を参照。
 元の容器で保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

成分	値

管理濃度

成分	値

設備対策

蒸気、粉塵またはヒューム、ミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

- 呼吸器の保護具
- 手の保護具
- 眼の保護具
- 皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸保護器具。
 保護手袋を着用すること。
 側板付安全眼鏡(又はゴーグル)を着用すること。
 適切な保護衣を着用する。

適切な衛生対策

使用中は飲食や喫煙をしない。眼に入らないようにする。休憩前や製品取扱直後には手を洗う。適切な産業衛生及び安全対策のもとに取り扱う。

9. 物理的および化学的性質

外観

形状	液体
色	透明
臭い	溶剤臭
Ph	知見なし
融点 / 凝固点	知見なし
沸点、初留点と沸騰範囲	83℃
引火点	11.7℃
自然発火温度(発火点)	なし
燃焼又は爆発範囲—下限	なし
燃焼又は爆発範囲—上限	なし
蒸気圧	知見なし
蒸気密度	知見なし
比重(相対密度)	0.8-0.85
溶解性(水)	易溶
n-オクタノール / 水分配係数	知見なし
分解温度	知見なし

10. 安定性及び反応性

安定性

通常取扱条件において安定

危険有害反応可能性

強酸化剤と混色すると激しく反応する。
 高温においてアルミニウムを腐食する可能性。

避けるべき条件

熱、日光

混触危険物質

強酸化剤

危険有害な分解生成物

一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性

経口	知見なし
経皮	知見なし

吸入	知見なし
皮膚腐食性・刺激性	知見なし
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	知見なし
呼吸器・皮膚感作性	知見なし
生殖細胞変異原性	知見なし
発がん性	知見なし
生殖毒性	知見なし
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	知見なし
特定標的臓器・全身麻痺(反復暴露)	知見なし
吸引性呼吸器有害性	知見なし

12. 環境影響情報

水棲環境急性・慢性有害性	知見なし
生態毒性	知見なし

13. 廃棄上の注意

地域の廃棄規制	都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
---------	---------------------------------

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	1219
国連分類	3
容器等級	II
海洋汚染物質	該当なし
国内規制	「15. 適用法令」参照
輸送の特定の安全対策及び条件	特になし

15. 適用法令

労働安全衛生法	
危険物	該当なし
特化則	
第一類物質	該当なし
第二類物質	該当なし
第三類物質	該当なし
有機則	
第一種有機溶剤	該当なし
第二種有機溶剤	該当なし
第三種有機溶剤	該当なし
通知対象物	イソプロピルアルコール
表示対象物	イソプロピルアルコール
毒物及び劇物取締法	
特定毒物	該当なし
毒物	該当なし
劇物	該当なし
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	
第一種特定化学物質	該当なし
第二種特定化学物質	該当なし
第一種監視化学物質	該当なし
第二種監視化学物質	該当なし
第三種監視化学物質	該当なし
化学物質排出把握管理促進法	
特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)	該当なし

第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当なし

第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当なし

消防法

該当なし

船舶安全法・危規則

引火性液体類

航空法・施工規則

国連番号

1219

国連分類

3

容器等級

II

火薬類取締法

該当なし

高圧ガス保安法

該当なし

海洋汚染防止法

該当なし

16. その他の情報

参考文献

nite 独立行政法人 製品評価技術基盤機構－第一種指定化学物質一覧表
日本産業衛生学会－許容濃度等の勧告

nite 独立行政法人 製品評価技術基盤機構－化学物質総合情報提供システム
中央労働災害防止協会－第二条関係 別表

注記

この製品安全データシートに記載されている内容は代表値であり、規格、及び保障値を示すものではありません。また、推奨される産業衛生措置および安全な取扱い方法は、通常の取扱いにおいて適用した方がいいと思われる内容を記載しておりますので具体的な用途や取扱条件に照らして、推奨事項が適切かどうかご検討くださいますようお願い致します。